

# 月刊しばうら

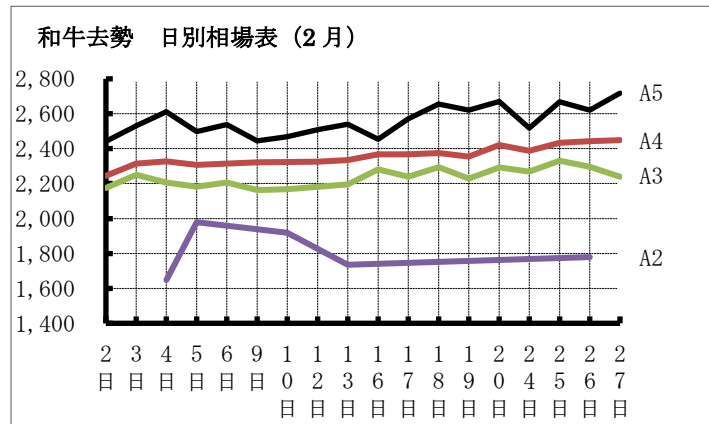
2026年3月号

## 牛肉営業部

<2月の相場動向>

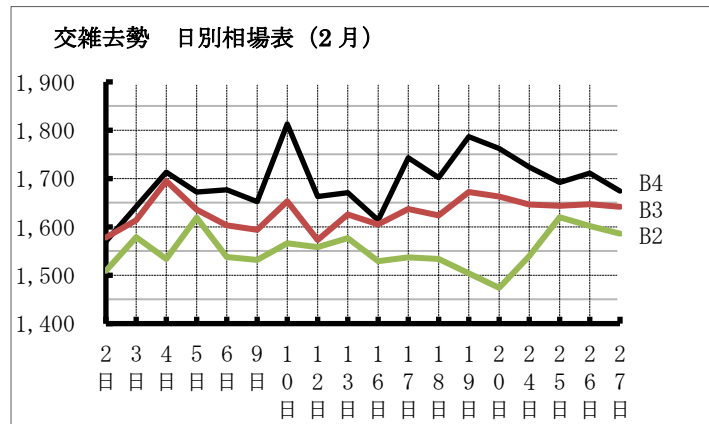
2月は低温の日が多く、鍋物需要などを背景に低価格帯スライス材を中心に量販店の引き合いが強かった。このため枝肉相場は和牛2等級を除き前月上回った。もっとも前月は年末年始需要の反動で低迷していたため、上昇幅は大きい水準は前年並みに戻ったとみられる。交雑は全等級で前年・前月上回った。値頃感のあるものは堅調な一方、4等級は歩留まりの良いものを除き高値疲れがみられる。

相場好転の背景には、2月の生体出荷頭数が前年の95.6%（和牛95.6%、交雑96.5%）に減少したことに加え、低価格帯スライス需要が堅調で低位等級から相場を下支えしたことが挙げられる。一方、ロースなど高級部位の引き合いは弱く、外食需要も低調に推移した。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,577円	-8円	99.7%	+83円	103.3%
A4	2,351円	+41円	101.8%	+108円	104.8%
A3	2,229円	+84円	103.9%	+93円	104.4%
A2	1,812円	-51円	97.1%	-51円	97.3%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,697円	+64円	103.9%	+27円	101.6%
B3	1,632円	+79円	105.1%	+31円	101.9%
B2	1,557円	+153円	110.9%	+60円	104.0%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	-	-	-	-	-
B2	1,297円	+168円	114.9%	+63円	105.1%

<3月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、1月の輸入量は前年同月比22.1%増の3万9,760tで、うちチルドは2.6%増の1万3,720tと上回った。フローズンは、前年同月比35.6%増の2万6,041tと共に前年同月を大幅に上回った。

農畜産業振興機構によると2月の牛肉輸入数量は、前年同月の輸入量が少なかったため、前年比12.1%増の3万2,900t（チルド13.1%増・冷凍11.5%増）、3月は2.4%減の3万200t（チルド2.5%減・冷凍2.3%減）で予測している。3月のチルド・フローズンは共に現地価格の高止まりから、主要国を含むほとんどの輸入先からの輸入量減少が見込まれることで、わずかに前年を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		1月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	7,196	6,198	16.1%
	米国	5,087	5,761	88.3%
	その他	1,437	1,414	101.6%
	合計	13,720	13,373	102.6%
フローズン	豪州	14,908	8,893	167.6%
	米国	7,447	6,901	107.9%
	その他	3,686	3,409	108.1%
	合計	26,041	19,203	135.6%

出典：食肉速報 単位：t

<3月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による3月の出荷予測頭数は、全体で前年比99.4%の8万8,600頭で、品種別にみると和牛は3.1%減の4万2,600頭、交雑種は2.6%増の2万1,400頭、乳用種は1.1%増の2万4,100頭と予測している。

東京食肉市場の3月のと畜頭数は7,450頭（前年比0.9%増）を予定しています。

<3月の牛枝肉相場見通し>

例年3月は歓送迎会や春休みの行楽、お花見需要が見込まれ、外食産業を中心に交雑牛ロースや和牛バラなどの引き合いが強まると期待される。もっとも、量販店では鍋用商材から焼肉商材への棚替えが進む時期でもあり、例年このタイミングは需給の様子見が増えて相場が伸び悩み、停滞しやすい。

ゴールデンウィークに向けた仕入れが次の上昇局面になる見通しであることから、本格的な相場上昇は4月以降になると予想される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500~2,750	B4	1,650~1,750
A4	2,250~2,500	B3	1,550~1,650
A3	2,050~2,250	B2	1,450~1,550
A2	1,800~2,050		
乳牛去勢			
B3	1,350~1,450		
B2	1,250~1,350		

## 豚肉営業部

2026年1月の全国と畜頭数は141万448頭（前年同月比0.5%増）と前年を上回った。また、1月の豚肉通関数量は8万3,160t（同3.2%増）と前年同月から増加となった。内訳はチルドが3万6,154t（同12.7%増）と増加した一方、フローズンは4万7,006t（同3.1%減）と減少した。

2025-2026年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
1	79,908	80,505	23,536	190,508	78,746	75,733
2	72,607	71,911	24,121	192,819	71,884	69,600
3	76,052	65,956	24,424	192,115	75,606	66,660
4	77,457	93,904	24,518	197,256	77,266	88,763
5	73,100	90,460	24,091	214,149	73,406	73,567
6	68,598	83,731	24,109	222,274	68,453	75,606
7	69,871	82,687	22,399	219,105	71,374	84,255
8	63,753	74,022	21,855	216,178	64,151	76,949
9	70,991	76,220	21,545	213,175	71,134	79,223
10	81,313	84,875	21,943	209,457	80,789	88,593
11	76,416	65,268	22,199	196,931	75,962	77,794
12	82,651	68,313	22,928	182,068	81,767	83,176
1	80,664	83,073	22,910	190,177	80,567	74,964
比	101%	103%	97%	100%	102%	99%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

1月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	11,994	96.5%	デンマーク	2,445	64.8%
カナダ	19,395	116.6%	スペイン	14,167	89.6%
メキシコ	4,753	158.9%	メキシコ	4,526	89.7%
			アメリカ	5,413	109.6%
			カナダ	2,620	82.9%
合計	36,154	112.7%		47,006	96.9%

単位：t

<2月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2日	65,400	574	542	961
3日	67,000	587	558	940
4日	66,000	635	577	812
5日	67,800	588	566	985
6日	67,600	585	567	1,131
9日	68,800	577	558	956
平均	67,100/日			964/日

全国的に厳しい寒さが続き、大雪による輸送への影響もみられたが、出荷頭数は比較的堅調に推移した。不需要期で末端の荷動きは鈍く、需要が弱い一方で供給が保たれたため相場は軟調な展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	72,200	605	597	894
12日	72,600	610	570	831
13日	67,500	590	558	1,048
16日	68,400	574	555	988
17日	69,100	605	581	972
18日	68,100	582	533	853
平均	69,650/日			931/日

11日が祝日だったこともあり、1日当たりの出荷頭数は増加した。全国のと畜頭数も7万頭を超える日があったが、スペイン産の輸入停止の影響で輸入ポークから国産豚肉への代替需要が増加したため、相場は600円前後で堅調に推移した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
19日	68,800	610	587	716
20日	67,200	665	640	998
24日	74,500	613	589	931
25日	72,500	624	587	1,131
26日	70,800	609	585	923
27日	67,900	567	540	1,128
平均	70,283/日			971/日

関東では気温の高い日が増え鍋物需要は鈍化した一方、バラの引き合いは引き続き強かった。

2月20日は第10回東京市場豚肉枝肉共励会が開催され、普段より購買者が多かったこと等から、相場を押し上げ、上物相場が前日比+55円と大幅高となった。

<3月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和8年3月の肉豚出荷予測では139万5,000頭（前年比103.1%）と予測している。

当市場の3月集荷予定せり頭数は1万8,000頭、1日あたりでは約857頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると3月分の豚肉輸入見込数量は、総量が7万4,200t（同112.5%）、内訳は冷蔵輸入量が3万2,900t（同98.3%）、冷凍輸入量は4万1,300t（同127.1%）と予測。

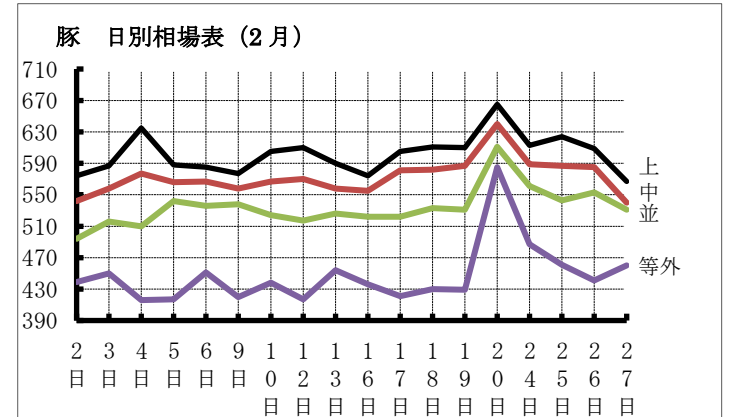
冷蔵品輸入量は、米国産の減少が見込まれることから前年同月をわずかに下回ると予測する。一方で3カ月平均は前年同期をかなりの程度上回ると予測される。

冷凍品輸入量はこれまで前年同月を下回って推移してきたが、今後はブラジル産、米国産、カナダ産、デンマーク産の増加が見込まれること等から、前年同月を大幅に上回ると予測する。同じく3カ月平均では前年同期をわずかに上回ると予想される。

3月は気温の上昇とともに、春の行楽シーズンに向けバラやスペアリブなどの焼肉商材の動きが強まり、全体的な需要も増加していきそうだ。また、国産の凍結品もスソ物を中心に堅調な引き合いが見込まれ、夏場の豚相場高を見据えて凍結在庫を確保する動きもみられることから、相場の下支え要因となる可能性がある。

供給面では例年、順調に出荷頭数が増える時期ではあるものの、一部地域ではPRRSなどの疾病の影響で減少する恐れもある。輸入ポークについては入船の遅れに加え円安もあり不透明感が強く、今後の状況次第では国産の需要が底堅く推移するとみられる。

以上のことから当市場の上物平均価格は600円前後、中物平均価格580円前後の展開と予測する。



**東京都港区港南2-7-19**  
**東京食肉市場株式会社**  
**TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127**